

しず老施協

No. 53

平成30年10月 発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館内

TEL. 054-653-2311 FAX. 054-653-2312

E-mail: sizurosi@vesta.ocn.ne.jp

http://www.shizu-roshikyo.jp/

巻頭言



「静岡県老施協の使命」

静岡県老人福祉施設協議会副会長 奥津 匡俊

今年の空前の猛暑や豪雨で気候変動の猛威と加速を痛感した昨今、介護現場の人手不足の深刻さも、更に加速し続ける動態です。

知恵とターゲットを絞り、従来の方法をチェンジし、公共政策の大胆な集中導入、イノベーションの爆発的パワーで、人口減少に歯止めを掛け、経済収縮を拡大に転換し、次の繁栄に早期に到達する事を期待します。

誰もが従前の在り方を変える困難に遭遇しつつも、働き方改革や、社会保障の効率化、イノベーションの猛威は、家族や生活者の姿を変え、従前の価値や方法

を飛び越えて行く事は避けられません。

老人福祉施設は、お年寄りの生活や介護を通して、都市部から過疎地域まで、困難に遭遇する人々の身近で頼りになる存在として、社会の変化に即して継続しなければなりません。

静岡県老施協は会員施設が連携し、情報を共有しつつ、事業課題の改善やサービスの展望を通し、現実的で効率的な、国や県・市町の施策の実現に貢献すべきと考えます。



「会長の補佐役として」

静岡県老人福祉施設協議会副会長 前田 万正

副会長を拝命して3年目となります蜂ヶ谷園施設長の前田と申します。

さて、『副会長としての抱負』ということですが、静老施協の会則によると「副会長は会長を補佐する」と役員職務に書かれています。会長の補佐が出来るよう努力いたします。

さて、企画経営委員会の調査によれば、会員施設の約1割が職員不足により、定員より少なく受け入れているとのことです。先般、『人材確保対策協議会』が

発足され、会長の代理として出席しました。この協議会は人手不足が特に深刻な『福祉』『運輸』『建設』『警備』分野に焦点を当て、静岡県経済産業部・静岡労働局・業界団体が一致団結して、人材を確保・育成・定着を目指し『TEAM SHIZUOKA』として取り組もうとするものです。即効性は期待できないかもしれませんが、魅力とやりがいを感じて1人でも多くの方が介護業界に目を向けていただけるよう、会員のみならずと共に汗を流したいと思います。

特集1

貴重な経験から思うこと

静岡県老人福祉施設協議会副会長 種岡 養一



8月1日に全国老施協災害対策委員会として、7月に豪雨災害に見舞われた岡山県へ現状視察の機会をいただきました。岡山県老施協の小泉会長のご案内で2カ所の施設に伺いました。被災状況につ

いては報道等で存じてはいたものの、現地入りして自然災害の猛威をまざまざと見せつけられた思いでした。

一件目は、被害の大きかった倉敷市真備町にある45名の地域密着型特養で、平屋建ての施設の一階部分が全て水没されたとのこと。幸いにも、その施設の迅速な判断と避難対応で、負傷者や犠牲者も無かったようですが、まだ開設して4年目の施設でしたが、全面的内装工事を余儀なくされておりました。しかし奇跡的にも利用者の安全が確保出来たのは、その施設から車で5分ほど離れた高台に同一法人の施設があり、そこへ避難出来たからだそうです。ただ施設の周辺の住宅や店舗は、ほぼ全て一階部分が住居機能を失っており、日常生活を取り戻すには大変な時間とエネルギーが必要なことは容易に想像出来ました。

二件目は総社市にある施設で、創設33年の100名の

特養でしたが、ここも平屋建て。(創設者が火災時の避難のし易さに拘られていたとのこと) 近くの河川の氾濫に伴い、床上50cm程の浸水被災であったが、利用者は近隣の施設13カ所に分担して受け入れていただき、負傷者等も無かったそうです。しかし、施設近隣の住民がその地を恐れて、集落の8割が戻らないと決断されたそうで、施設としてもこの地で事業を存続するか否かを検討せざるを得ないという状況でした。

このようなことは、まさに他人事ではありません。地球規模の気象変動により、ここ静岡も経験したことの無い異常気象に悩まされています。東海、東南海地震が襲来すると言われて久しいですが、本当に大丈夫でしょうか。

これから先はあらゆる被害を想定し、どれだけ多くのイメージが創れるかが防災・減災のカギになると思います。各支部での応援協力体制や、各施設の中での防災避難体制を、それぞれの施設において最悪な状況を想定してみましょう。そこから、やらねばならないことが必ず浮かんでくるはずですよ。

また相互応援協力の手段として、静岡D-CATや全国老施協版D-WAT等の活動にも関心を持っていたらとありがたいと思います。

平成30年7月豪雨義援金について

7月に発生した豪雨災害により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

このたび、静岡県老施協会員の皆様からお寄せいただいた募金総額は2,389,840円になりました。

お預かりした募金は全国老人福祉施設協議会及び日本赤十字社静岡県支部を通じて、被災地の復旧支援活動に充てさせていただきます。ご協力に対し深く感謝を申し上げます。



特集2

平成30年度報酬改定に伴う加算取得調査結果(特養)について

特養委員会委員長 宮 島 克 利



今年から特養委員会では調査班と研修班とにわかれて活動を進めております。その調査班が中心となってこの7月に標記の調査を行い、会員特養210施設の内、計163

施設（回答率：77.6%）から回答をいただきました。会員の皆様には大変お忙しい中ご協力をいただきありがとうございました。

今回の調査結果で特徴的であったのは、新規加算について算定されている施設が1割から2割程度ととても少ない状況であったことです。特に、排せつ支援や褥瘡予防に関する取り組みは、実際はどこの施設でも行っていることと思いますが、あまり算定されていない状況です。排せつについては普段から個別的に支援し、職員の都合でオムツ排泄にするようなことはありませんし、褥瘡予防に関しても施設の運営基準に義務付けられていることでどこの施設でも取り組んでいる

ことと思います。にもかかわらず算定施設が少なかったのは、いただいた意見にもありましたが、単価が低い割には記録等に要する時間がかかりすぎる、必要な計画書等が不明瞭といったことがあります。その為、効率的に記録や計画作成等を行ってこれらのプロセスを標準業務にし、いかに（楽しんで）算定していくかがポイントであることを思います。

少なくともこの二つの加算算定は特養の役割からして必須でしょう。回答では今後この加算を算定する予定であるとされた施設は半数近くありました。特養委員会としては、本調査結果の情報提供をしていくとともに、算定を予定、検討されている施設の参考となるような意見交換や既に算定されている施設に対し相談等できる仕組みを検討していきたいと思います。

今後ともよろしくお願い致します。

（御殿場十字の園施設長）

平成30年度報酬改定に伴う加算取得調査 結果（概要）

加 算	施設数		算定率
	算定	未算定	
口腔衛生管理加算	35	127	21.6%
配置医師緊急時対応加算	20	141	12.4%
生活機能向上連携加算	5	157	3.1%
排せつ支援加算	21	141	13.0%
褥瘡マネジメント加算	36	125	22.4%
低栄養リスク改善加算	23	139	14.2%
再入所時栄養連携加算	20	141	12.4%
介護ロボットの導入（夜勤職員配置関係）	14	148	8.6%

調査期間：2018年7月13日～2018年7月31日

※加算項目の無回答があり回答の合計数は一致しない。

よりよい介護の提供に向けて — アンケート調査の結果から —



静岡県健康福祉部福祉長寿局
介護保険課長

浦田 卓 靖

本県の介護職員の確保の状況は大変厳しく、本年3月に公表した「第8次静岡県長寿社会保健福祉計画」において、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、約8千人の介護職員が不足するという推計をしています。

県では、「職場定着」、「新規就業」、「介護職への理解」の促進を柱に、介護職員の確保対策に取り組んでおり、その中で、業務の効率化による職員負担の軽減を図る

ため、訪問介護を対象に「介護分野ICT化等事業費助成事業」を今年度創設し、助成を開始したところです。

この取組は、入所施設においても重要と思われることから、今般、介護事業所を対象に「介護ロボット等導入に係る意向調査」を実施し、その結果は次のとおりであります。この結果を参考に、今後の業務効率化の支援について検討していきたいと考えております。（複数回答あり）

分 野	種 類	「希望有」回答数
移乗介助	装着型	59
	非装着型	90
移動支援	歩行支援機器（外出用）	33
	歩行支援機器（屋内用）	73
	装着型	30
排泄支援	トイレ	73
	トイレ誘導機器	74
	トイレ内動作支援	63
見守り・コミュニケーション	見守り（介護施設用）	136
	見守り（在宅介護）	79
	コミュニケーション	90
入浴支援	—	96
介護業務支援	—	85
計		981

また、整備後に相当年数が経過している施設では、老朽化に対応した大規模な修繕の必要が出てくることが見込まれます。県では、施設の創設や増改築、開設準備経費などへの補助を行っていますが、大規模修繕は現在補助対象としていないため、状況が分かりませんでした。

そこで、県老協の皆様を対象に「介護保険関連施設の大規模修繕等に係るアンケート調査」を実施しました。

調査内容は、開設から10年以上経過し、今後5年間のうちに概ね1千万円以上の大規模修繕工事の実施予定を伺いました。

その結果は下記の表のとおりとなりました。主な工事内容は、外壁改修、エレベーター・エアコン・スプリンクラー更新、給排水設備・衛生設備・ボイラー設備更新などとなっていることから、今後、大規模修繕に要する費用への対応について、研究してまいりたいと考えております。

区 分	調査対象	大規模修繕の実施予定			実施予定施設数Bの運営法人		
	施設数 A	施設数 B	工事件数 C	実施予定率 B/A	社会福祉法人	市町等	医療法人等
特別養護老人ホーム	111	31	51	27.9%	31		
養護老人ホーム	16	4	5	25.0%		4	
軽費老人ホーム	23	5	8	21.7%	5		
介護老人保健施設	61	13	19	21.3%		2	11
計	211	53	83	25.1%	36	6	11

新人職員紹介

どうぞよろしくお願いします

ひだまりの郷

(沼津市)

- ① 岸井美樹（ケアワーカー）
- ② 前から欲しかったバックが買えたこと
- ③ 石原さとみ
- ④ 車を買う、旅行に行く
- ⑤ 利用者様も職員も笑顔で過ごせる職場にしていきたいです。
- ⑥ ボランティアで訪問した時利用者様と接する中で利用者様の笑顔が印象的でした。その笑顔を見て、私もこの職場で働きたいと思いました。



葦山・ぶなの森

(伊豆の国市)

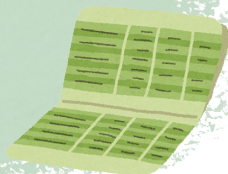
- ① 小田切乙女（特養介護職員）
- ② 入居者様に「ありがとう」と言われたこと。
- ③ 岸 優太（ジャニーズ）
- ④ アイドルに貢ぐ
- ⑤ 「ありがとう」が溢れる施設にしたい
- ⑥ 見学に来たときに雰囲気が明るかったから



蜂ヶ谷園

(静岡市)

- ① 若尾 海（介護職員）
- ② いつもお返事のない利用者様から返答があった
- ③ ダウンタウン松本人志
- ④ 半分は貯金、半分親に渡す
- ⑤ こじんまりとした穏やかな時間の流れる施設
- ⑥ 説明会を受けた印象が良かった。家から近かった



愛華の郷

(藤枝市)

- ① 鈴木春喜（介護職員）
- ② ずっと欲しかったアーティストの画集を買えた事
- ③ 米津玄師
- ④ 募金、好きな作家さんの作品を買う
- ⑤ 利用者さんも職員も明るい気持ちで過ごせる施設
- ⑥ 働くための設備が整っていて、全体的に明るく温かさを感じる施設だったから



天竜厚生会 城北の家

(浜松市)

- ① 尾高つぐみ（ケアワーカー）
- ② 入社当初より仕事にやりがいを感じられるようになってきたこと
- ③ お笑い芸人口パート秋山さん
- ④ 半分は自分で貯金、もう半分は家族に分配
- ⑤ ご利用者が日々自分らしく過ごし、安心して生活することができる施設
- ⑥ 会社説明会



引佐みやまの里

(浜松市)

- ① 中村尚平（介護職）
- ② 旅行に行ったこと
- ③ 井本絢子
- ④ 日本全国を旅行する
- ⑤ 利用者様はもちろん職員も過ごしやすい場所にしたい
- ⑥ 職場説明会



各施設の新人職員にお聞きしました。

- Q ① 氏名・職種 ② 最近あったうれしいことは ③ 好きなタレント、スポーツ選手
④ もし宝くじで1億円当たったら何に使いますか ⑤ 今後どんな施設（職場）にしていきたいですか
⑥ 施設を選んだきっかけや決め手は何ですか

静岡県老施協中部支部の活動紹介

福祉用具の導入と教育システムについて

特別養護老人ホーム 晃の園 生活相談員 佐野 貴之

介護現場において、援助者の悩みとして取り上げられることの多い「腰痛」。当施設も例外ではなく、慢性的な腰痛を抱える職員が多いという現実がありました。また長年日常的に行われていた“持ち上げる介護”は、入居者の皮下出血や職員との共倒れなど、怪我に繋がる事態を引き起こすこともありました。お互いに負担が少なく、安心できる援助方法は何かを考え辿り着いたのが、“抱えない介護”を実現する介護リフトなど福祉用具の導入でした。

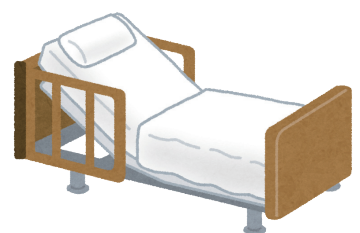
平成22年、福祉用具導入プロジェクトが晃の園で発足します。先駆的な取り組みをしている施設への見学に続き、介護現場だけでなく、施設全体で取り組む課題とすべく、多職種による福祉用具委員会を立ち上げました。導入に際しては、公募で1ユニットをモデルユニットに選び、順次、他ユニットへ展開する方法を取りました。導入を前に、入居者と家族に向けて説明会も開催しました。見学先からのアドバイスにより、福祉用具取り扱い業者に相談を行い、福祉用具の選定や使用方法の指導はもとより、介護技術アドバイザーとして関与してもらうようにもなりました。福祉用具の購入には「介護労働環境向上奨励金」を最大限に活用して、床走行リフトや浴室リフト、移乗シート、移乗ボード、そしてこれらと有効な連携を可能とする車いすやベッドなど、入居者の状況に合わせるべく様々な福祉用具の配置を行いました。平成23年にモデルユニットでの運用を実現させ、そこで得たノウハウを活

かしながら他ユニットへの展開を進めた結果、平成27年には全15ユニットへの導入が完了しました。

ここまで時間をかけて導入を進めたことで、じっくり確実な初期展開は達成できました。けれども運用を続ける中で、次第に職員による技術の格差や、自己流への変化などの問題が生じるようになってしまいました。この問題を解決すべく、福祉用具プランナーの有資格者が中心となり、技術の統一を目的とした福祉用具アニュアル、動画の作成を行いました。また、実際に技術が備わっているか確認するために、リフト操作に関する検定試験を平成27年から毎年行い、職員全員が福祉用具のスペシャリストになることを目標に活動を続けています。



導入に終わらず、活用を通じて施設理念である「尊厳を守り、ゆとりある生活を共に送る」ことが私たちの目的です。絶えず進歩している技術と情報の取得に努め、質を高める仕組みづくりを今後も施設全体で進めていきます。



平成30年度企画経営委員会の活動について



企画経営委員会委員長

大塚 芳正

企画経営委員会では、平成30年度は以下の3チーム体制として活動していくことになりました。各チームの目的等は次のとおりとなります。

- ① 調査研究チーム 静岡県老人福祉施設協議会として重要な課題について調査研究することを目的とします。今年度は、当協議会にとって有意義となるように静岡県の施策立案につながるような情報収集をすることとし、会長の意向もあり、人材不足の影響の実態調査をすることとしております。さらに、次年度につなげるような調査研究も考えていきたいと思っております。
- ② 要望書チーム 例年行っている県福祉長寿局との意見交換会を、今年度は8月28日に行いました。県への要望について、それを県政の施策に速やかに反映するためには、秋では遅いという判断からです。また、今までの意見交換会での県の回答は、われわれに対してあまり協力的ではなかったという反省から、今年は県当局と協力して福祉・介護を取り巻く状況を改善していくような具体的な施策を盛り込むように努力しました。さらに、調査研究チームの調査データを反映することも考慮し、今年度は企画経営委員会全体として県の施策反映に焦点化しています。
- ③ ネットワーク形成チーム 今までの静岡県老人福祉施設協議会の活動は組織内部の活動にとどまっていること

が多かったと考えています。措置の時代から、行政当局への働きかけは少なくないものの、そこにとどまっていたという認識です。しかし、福祉・介護の状況も社会の多様性を反映してきて、老施協としても多様な社会交流を必要としていると考えています。もともと介護は医療と不可分な領域ですし、経済的には介護業界が雇用の重要な一分野となるまでに成長しています。老施協活動の視野を広げるため、他の都道府県と交流することも必要かもしれません。このような状況の中、今年度は県の施策への反映を目指して、県議会議員、特に自民党県議団とのネットワーク活動を探っていきます。

今年度は、県当局との意見交換会を中心として早めの活動開始をしています。老施協会員をとりまく課題としては、今後も続く人材不足、施設の老朽化建て替え、地域包括ケアの進展に伴う地域間格差、社会福祉法人の地域貢献活動の在り方、などと山積みしています。企画経営委員会としては多くの課題を同時に扱うことは難しいのが実態です。会員にとって重要で優先順位が高い課題に対して活動していきたいと考えています。そのため、会員間の意見や議論を活発にして、多くの意見を理事会や委員会に届けていただけるようお願いいたします。

(すどの杜施設長)

人材育成を考えてまいります



研修委員会委員長

及川 ゆりこ

平成30年度研修委員長を務めます、及川でございます。

研修委員会では、今年度新しく「人材育成」をテーマにした研修を企画しました。『『承認マネジメント』～『認めること』を核としたマネジメント教育を身につけよう!!』と題して、県内3か所（東・中・西）で、時期をずらしてご案内しています。

この研修をもとに、平成31年度はさらにステップアップした研修を本年度中に立案する計画です。

本年度すでに終了した研修もごございますが、『接遇マナー研修』は、新人職員や、新人職員の指導者の研修として、納得していただける内容でございました。今後の皆様の施設の研修計画に是非お役立て下さい。合わせて、毎年行われる高齢者福祉研究大会の優秀者による「Agein」も、研究大会に参加できなかった方々に是非聞いていただきたい研修です。そして何よりも、毎年行われている「高齢者福祉研究大会」が、発表者はもとより、拝聴している方々にとりましても、より良い研鑽の機会となっております。認知症の方に対するケアや看取りの時期のケア、個別ケアを

大事にする事業所や、職員の処遇を大切にする事業所など様々な取り組みが発表されております。この大会は、関係者が多く関わることで、静岡県内のケアの質が底上げされることにつながるといっても過言ではありません。さらに、今年の県外視察研修では、京都の「上位認証」制度を見聞する計画を立てました。福祉・介護業界での「一流企業の証」を手にした施設を見学し、お話を聞いてまいります。

このようにさまざまな研修を企画しております。今年の研修委員会では、これまでの委員会の活動を整理して、研修企画・実施のためのガイドラインを整備いたしました。今後この委員会で立案する計画が、皆様の施設の研修計画と連携できるよう、また県内の職能団体等が主催する研修の情報なども提供しながら、より効果的で専門的な人材育成に寄与できるよう、皆様にご提供していきたいと考えております。最後に、研修委員会へ、ご意見ご要望を頂戴したいと思っておりますので何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

(いづテラス施設長)

平成30年度老施協活動報告

第10回 静岡県高齢者福祉研究大会開催

第10回高齢者福祉研究大会は、8月20日（月）静岡県コンベンションアーツセンターグランシップに多くの会員施設の皆様にご参加をいただき、成功裏のうちに開催することができました。

○講演会

講師 「私は創造的でありたい」

メロウ倶楽部副会長 若宮正子氏

○研究発表 71題

次の皆様が優秀賞に選出されました。



ブロック	発表者		演 題
	施設名	職名・氏名	
A	愛華の郷	管理栄養士 井上 絵利果 介護福祉士 青島 昌代	職員専用の昼食・休憩空間 “レストルーム”の紹介
B	在宅複合型施設 長上苑	介護支援専門員 富永京子 主任介護支援専門員 松岡 徹	「真の自立支援」とは
C	厚生苑 清流の郷	介護職員 山本ももか 介護職員 溝口香奈子	口腔機能の支援によるADLの向上
D	第2開寿園	介護課長相当 増田知佐子	特養・老健合同 藤枝市PK（プロフェッショナルカイゴ） 選手権大会
E	いなさ愛光園	介護職 松井莉子 介護職 蓮井 祥	本当は、みんなとうまくやりたい
F	第二長上苑	管理栄養士 大谷三千恵	口から食べるをみんなで支える取り組み

【老施協】

★30年8月28日 第2回理事会

【協議事項】

職員給与規程の一部改正、高齢者福祉研究大会実行委員会委員の決定、21世紀委員会委員の補欠の選任、平成30年度会長表彰受賞者の決定

【報告事項】

第10回高齢者福祉研究大会の開催状況、防災緊急連絡体制、防災訓練の実施案、県健康福祉部福祉長寿局との懇談会、介護の日の啓発活動、平成30年7月豪雨災害義援金の状況

【企画経営委員会】

★30年7月4日 第3回委員会

全体打合せ、チーム別ミーティング（調査研究：調査メニューとスケジュール、要望：県社協、県との懇談会・要望、ネットワーク：連携内容・方法の検討）

★30年8月3日 第4回委員会

全体打合せ、チーム別ミーティング（調査研究：調査集計状況と報告書、要望：県との懇談会、県要望案の検討、ネットワーク：連携内容・方法の検討）

【広報委員会】

★30年6月12日 第2回委員会

ホームページの充実に向けた検討、しず老施協第52号の構成概要について

★30年7月30日 第3回委員会

しず老施協第53号の企画、ホームページの充実に向けた検討について

【研修委員会】

★30年7月4日

人材養成研修会『「承認マネジメント」～『認めること』を核としたマネジメント教育を身につけよう!!』

静岡県総合社会福祉会館6階会議室

*講師 ふくしえん社労士事務所代表 後藤功太氏

★30年7月17日

「接遇マナー研修会」

静岡県総合社会福祉会館7階会議室

*講師 Jプレゼンスアカデミー 山脇あき子氏

【21世紀委員会】

★30年7月18日 第3回委員会

委員会委員の補欠の選任、平成30年度事業内容、奨学金制度について

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

★30年7月5日 第2回委員会

ブロック分け、発表一覧の確認、業務分担等の確認、展示会、今後のスケジュール等について

★30年8月3日 第10回静岡県高齢者福祉研究大会合同委員会 全体スケジュール、班別業務内容の確認等について

【養護委員会】

★30年7月5日 第1回養護委員会総会

平成29年度事業活動報告、平成30年度活動計画等について

【特養委員会】

★30年6月26日 第2回委員会

平成30年度活動内容、調査事業について

【地域ケア委員会】

★30年6月27日 第2回委員会

平成30年度調査事業について

“未来へつなぐふじのくにの介護力”

～静岡県（福祉長寿局）との懇談会と副知事・健康福祉部長への要望活動～

静岡県との懇談会

平成30年8月28日（火）に静岡県総合社会福祉会館において、静岡県（福祉長寿局）との懇談会を開催。静岡県の担当部局と老施協との忌憚のない意見交換が行われた。

【参加者】

静岡県

所 属	職 名	氏 名
福祉長寿局	局 長	山内 章司
地域福祉課	課 長	桑原 裕明
長寿政策課	課 長	杉山 勝
介護保険課	課 長	浦田 卓靖
福祉指導課	課 長	黒岩 康
	参事兼課長代理	沢井 和昭
	主幹兼副班長	秋月 和宏

老施協から石川会長をはじめとする副会長及び委員長等の19名、総勢26名が参加。

【意見要望内容】

老施協の各委員会から提出された意見要望を企画経営委員会がとりまとめ、静岡県の来年度予算等への要望として提出した主な内容は次のとおり。

- I 介護人材の確保・養成と、介護職の社会的評価の向上に向けた取り組みについて
給付型奨学金制度の創設、通信教育課程の設置、奨学金償還助成実施事業所に対する助成制度の創設、研修体系の整備等
- II 介護人材の定着に向けた介護労働環境の整備について
介護ロボット・見張りセンサーの導入、介護記録のIT化に係る助成制度の整備拡充

- III 防災・防犯対策の充実・強化について
BCPの実行性確保策、被災者避難に必要な設備等の整備に係る助成制度の創設等
- IV 福祉施設の老朽化への対応について
修繕・リフォーム費用の県単独支援の検討、特養・養護・軽費老人ホーム建替え支援等
- V 養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホームの運営について
空床対策、人材確保・処遇改善施策、入園者の生活充実施策の検討等
- VI 地域ケアに係る事業の運営について
介護予防・日常生活支援総合事業の緩和基準Aの県ガイドラインの作成・市町指導等



正副会長の要望活動

同日、正副会長は懇談会における要望書を携えて、吉林副知事と池田健康福祉部長を訪問し、要望書を提出するとともに意見交換を行いました。



特別養護老人ホーム **鶴寿の里**

法人名 社会福祉法人 十全朋友会
 開設日 平成30年4月1日（入会申込 平成30年5月1日）
 施設長 渡辺 綾華
 所在地 浜松市浜北区平口2438
 入所定員 50人 短期 10人

地域密着型特別養護老人ホーム **地域複合施設ひより**

法人名 社会福祉法人 ふらら
 開設日 平成30年4月1日（入会申込 平成30年5月2日）
 施設長 渡邊 一敏
 所在地 富士宮市山宮2051-1
 入所定員 29人

地域密着型特別養護老人ホーム **ディアナの郷**

法人名 社会福祉法人 真澄会
 開設日 平成30年4月1日（入会申込 平成30年5月1日）
 施設長 小林 秀己
 所在地 富士市宮島1476
 入所定員 29人



（お詫び）平成30年5月入会の「みずほケアハウス」につきましては、都合により次号に掲載させていただきます。

編集後記

大学卒業後、福祉の業界で仕事をするようになり、たくさんの人との出会いのなか全ての出会いが自分自身を成長させて下さっていると感じています。

今年度、広報委員会の一員としての役割を担うこととなりました。この出会いもきっと私を成長させて下さることと思います。紙面を通して誰かと、何かとつながり、私達の活動が誰かの成長のきっかけとなったら嬉しいです。

（成川）

本誌作成にあたり急なお声かけにも関わらず、ご協力いただいた皆様にも心から感謝申し上げます。私事です。趣味は何といってもスポーツ観戦です。特に最近は総合格闘技にどっぷりです。日課は帰宅後インターネットでそれを見る事です。万が一、騒ぎすぎて妻から右ストレートが飛んできていいように、ボクシングもしっかりと見ていきたいと思っています。

（眞砂）

数学が少々得意で、娘や息子の勉強をずっと見てきました。そのおかげで、子供たちとの関係は良好（自分が思っているだけかも）で、大した反抗期もなく今に至っています。ただ、二人とも福祉の仕事には全く興味がありません。“子どもは親の背中を見て育つ”と言います。少しぐらい関心があってもいいのに…と思う反面、ほっとしている部分もあり、少し複雑な心境です。

（金原）